（7）北　陸

<u>北陸地域では、景気は持ち直しの動きに足踏みがみられる。</u>

- **鉱工業生産は弱含んでいる。**
- **個人消費は緩やかに持ち直している。**
- **雇用情勢は持ち直している。**

（注）下線を付した箇所は、前回からの変更のあった
　　箇所を表す（＿は上方に変更、＿は下方に変更）。

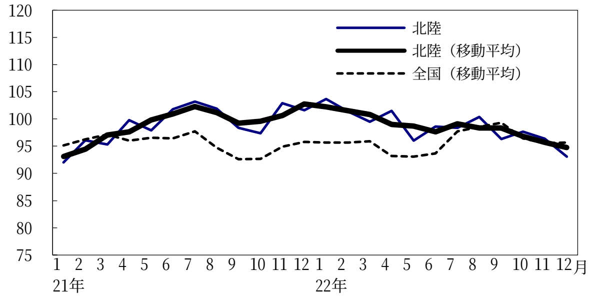
前回からの主要変更点

	前回（令和４年11月）	今回（令和５年３月）	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	持ち直しの動きに足踏みがみられる	↓
鉱工業生産	持ち直しに足踏みがみられる	弱含んでいる	↓

１．鉱工業生産の動向

鉱工業生産は弱含んでいる。
10―12月期の鉱工業生産は、電子部品・デバイスや化学が減少したこと等により、前期比2.7%減となった。

鉱工業生産指数



（備考）１．2015年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
　　　　２．全国及び北陸の太線は中心３か月移動平均。
　　　　　直近月は２か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)　（%）

	付加価値ウェイト	生産				
		7－9月期	10―12月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	15.3	▲14.2	▲18.2	▲9.6	▲2.6	▲1.3
化学	14.0	3.8	▲4.4	13.9	▲11.9	2.7
生産用機械	11.8	18.1	4.7	7.5	▲1.5	▲17.1
金属製品	8.1	▲5.5	2.7	2.5	4.5	▲1.9
繊維	6.9	6.4	▲2.9	▲4.5	2.2	▲2.8
鉱工業	100.0	▲0.3	▲2.7	1.5	▲1.3	▲3.4

（備考）１．地域における付加価値ウェイトの高い５業種。
　　　　２．10―12月期、12月は速報値。

2．個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

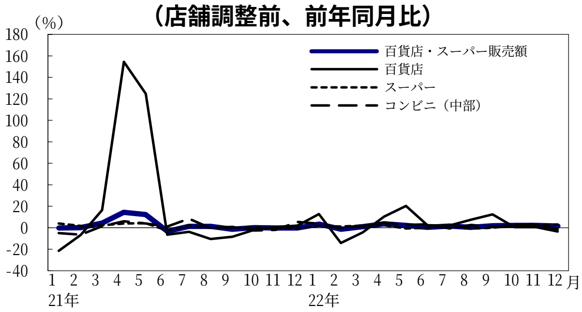
（1）地域別消費総合指数（ＲＤＥＩ（消費））

10―12 月期は前期比 1.0%増となった。月別にみると、10 月は前月比 0.9%増、11 月は同 1.5%減、12 月は同 0.9%増となった。

（2）百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10―12 月期は前年同期比 2.0%増となった。月別にみると、10 月は前年同月比 2.3%増、11 月は同 2.2%増、12 月は同 1.6%増となった。

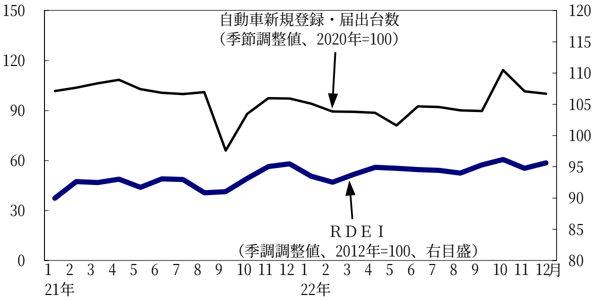
百貨店・スーパー販売額等
（店舗調整前、前年同月比）



	2022年10−12月	2022年10月	11月	12月
ＲＤＥＩ（消費*1）	1.0	0.9	▲1.5	0.9
百貨店・スーパー(*2)	2.0	2.3	2.2	1.6
百貨店(*2)	▲1.1	0.6	0.5	▲3.4
スーパー(*2)	2.7	2.6	2.6	2.8
コンビニ(*2)	1.4	2.3	3.4	▲1.3
乗用車(*3)	10.8	29.5	2.6	3.8
（季節調整値）(*3)	16.1	27.3	▲11.1	▲1.3

（備考）１．季節調整済前期(月)比（%）
２．店舗調整前、前年同期(月)比（%）
コンビニは、経済産業省の中部（富山、石川、岐阜、愛知、三重）の値。
３．乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

ＲＤＥＩ（消費）と自動車新規登録・届出台数の推移

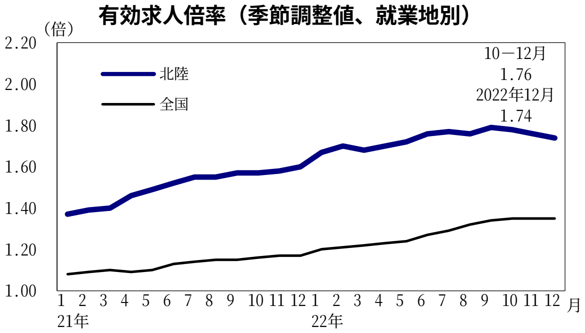


3．雇用情勢

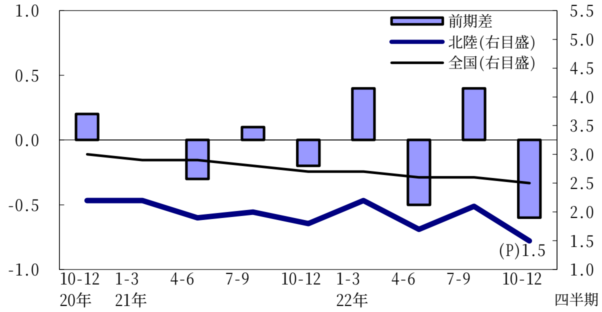
雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。

有効求人倍率（季節調整値、就業地別）



完全失業率（季節調整値）

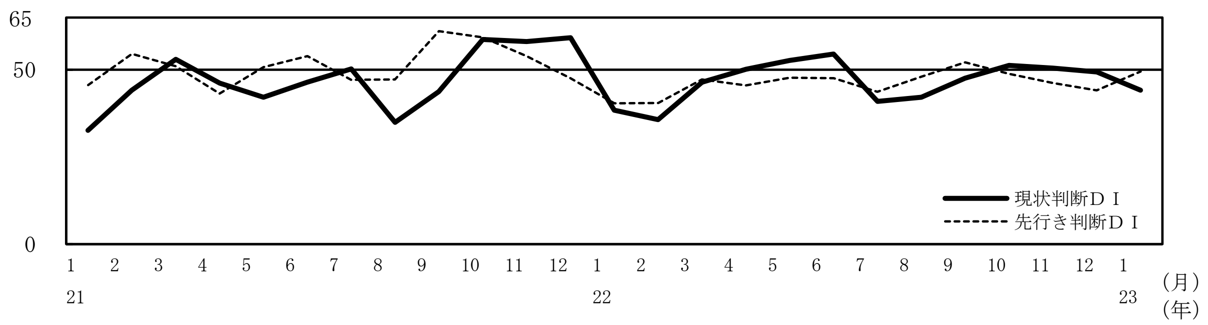


（備考）１．内閣府にて季節調整。
２．10―12 月期の値は暫定値。

（13）景気ウォッチャー調査（令和５年１月調査）景気判断理由の概要

７．北陸

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・季節柄、雪の影響による買いだめ需要はあるが、全体としては販売量に大きな変化はみられない（スーパー）。
		▲	・全国旅行支援が継続されているが、記録的寒波など雪の影響を受けキャンセルが多く出ている（観光型旅館）。
		○	・新年会も順調にあり、街に出る機会が増えている。後半に入っても雪の日が続いて、タクシーの利用がある（タクシー運転手）。
	企業動向関連	□	・受注は引き続き堅調である一方で、原材料価格の高騰、特に電気料金の値上げが経営に与える影響が深刻さを増している（繊維工業）。
		▲	・製造業等の仕入価格が高騰しており、粗利益率の低下がみられる。また、物価高騰の影響か、一般消費者向けの消費に鈍化がみられる（税理士）。
		○	・取引先の第３四半期の業況を確認すると、３か月前の業況は良くなっている。経済の流れが良くなっており、売上の回復が鮮明になっている（金融業）。
	雇用関連	□	・求人数に大きな変化はみられず、求人倍率は高い状況が継続している（職業安定所）。
		○	・新型コロナウイルス感染症がやや落ち着き気味となり、求人数が増え始めた。しかし、求職者数が少なく人材不足の状態で、マッチングはかなり難しくなっている（民間職業紹介機関）。
	その他の特徴コメント		▲：降雪の影響で不要不急の外出を控えるようにという呼び掛けがあり、来客数が減少した（衣料品専門店）。 ×：相次ぐ値上げが大きく影響し、節約志向が強まっている（住関連専門店）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・来客数は多少増えてきているが、４月から値上げ等があるため、買い控えがあると考える（一般小売店［精肉］）。
		▲	・物価高が進む上に電気料金も大幅値上げとなるなど、消費マインドを低下させる要素しか思い浮かばない。さらに、住宅ローン金利も上昇する気配があり、そうなれば業界的に大打撃を受けるものと危惧している（住宅販売会社）。
	企業動向関連	□	・原材料価格については、一時期のような急激な高騰は収まったものの、今後の動向については依然として不透明感がある（建設業）。
		○	・製品を供給している小売店への客足が増えつつある（精密機械器具製造業）。
		▲	・この先のエネルギーや物流絡みのコストアップが、収益を更に圧迫すると考える（食料品製造業）。
	雇用関連	○	・新年度に向かい求職者と求人内容が徐々にマッチングし、雇用契約者数の増加につながると考える（人材派遣会社）。
	その他の特徴コメント		○：メーカーからの新車入荷が多少良くなる情報があり、売上の増加も期待できるため、やや良くなると考える（乗用車販売店）。 ○：新型コロナウイルス感染症の２類相当から５類感染症への移行が打ち出され、室内でのマスクの制限も緩和されれば、春先から少しずつでも、しっかりと上向いてくることが期待できる（その他レジャー施設［スポーツクラブ］）。

現状・先行き判断ＤＩ（北陸）の推移（季節調整値）